

第2回 市民一人ひとりが輝く都市第2分科会 議事要旨

1 開催日時

平成26年2月4日(火)14時00分～16時15分

2 会場

久留米商工会館 5階Aホール

3 出席委員(順不同)

委員9名

石井宏和委員、佐藤晶二委員、田島スマ子委員、西依直子委員、橋本政孝委員、橋本安彦委員、宮崎須美子委員、八尋義伸委員、吉田輝彰委員

4 欠席者

なし

5 議事

(1)久留米市新総合計画次期基本計画骨子案について

①次期基本計画における重点課題について

②取り組むべき施策や課題、施策(小分類)内容について

6 その他

1 開会

■事務局より、前回欠席委員(佐藤晶二委員)紹介、資料確認

○吉田輝彰分科会長

市民一人ひとりが輝く都市第2分科会を始める。

2 議事

(1)久留米市新総合計画次期基本計画骨子案について

①次期基本計画における重点課題について

○吉田輝彰分科会長

本日の議題は、久留米市新総合計画次期基本計画骨子案について。本日もう1回開催し、骨子案に対しての分科会としての報告を出す。早速、「次期基本計画における重点課題」について、ご意見を願います。

○宮崎須美子委員

まずは、市外から人が入ってきてもらわないといけないが、例えば、温泉は市内から佐賀とか小郡などの安いところに出かけている。小郡は温泉を市が経営しているが、久留米市ではできないのか。

また、福岡市には100円バスがあるが、久留米市内のバスは乗った瞬間から160円でこたえる。

○吉田輝彰分科会長

善導寺に公営のスパリゾートホテル久留米があったが、国の政策で閉館している。

○八尋義伸副分科会長

スパリゾートは、売却費用に加え、多額の整備費用もかかるので、民間に経営を行なってもらう方がよいということになった。私も市外から久留米市に泊まりに来てもらうならば、スパリゾートが必要だと考えていたが、現状はどうか。

■事務局

現在、国が民間売却へ向け準備中。新年度以降に入札にかけるスケジュールと聞いている。1回で値段の折り合いがつくかという問題がある。八尋義伸副分科会長に言っていたように、どうしても市が負担するには高い。また今からがメンテナンスの時期で、ランニングコストもかかってくる。そのような経営は、できるだけ民間に行なってもらう方がよいという判断となっている。今

は、民間への売却の手続きを見守っている状況です。

○八尋義伸副分科会長

このような民間活用という文章が、「持続する21世紀型の都市の構築」、「幸せを実感できる市民生活の実現」の中にはない。

○宮崎須美子委員

市外の人から、久留米には遊ぶところが無いと言われる。

○橋本安彦委員

久留米市総合都市プラザが出来ると変わってくると思う。100円バス運行の話も活きてくる。久留米でも1回試したが、半年しかもたなかった。

○西依直子委員

バスの話が出たが、石橋美術館と石橋文化センター、西鉄で、「久留米市・花と美術館の散策きっぷ」を5年前に始めた。西鉄が切符を割引く、石橋文化センターもお茶を安くする、石橋美術館も入場料を安くして、福岡からお客様を呼ぼうと今も続けている。

100円バスの話は、久留米では利用者が少ないという話は聞いている。

○八尋義伸副分科会長

福利厚生施設などについては、3ページの真ん中に、「まず、長期的には、人口減少が避けられないことを前提として」と、書いてある。「拡散型の都市形態から集約型の効率的な都市形態へと転換し」、ともある。これらの集約がどの集約を意味しているかがわからないが、拡散しながらも拠点をつくらなければいけないと思う。ここで書いている“集約型の都市形態”というのは何を意味しているのかがわからない。

■事務局

具体的にはその次の段落に書いている、“高度で広域的な都市機能”、つまり総合都市プラザなど人が集まるような都市機能や文化と、高齢化社会になっており、都市型住宅などいわゆるマンションなどがコンパクトに集まった中心市街地が集約型になる。

一方で、地域の生活拠点を守って、周辺では生活するうえで買物には困らないような地域生活機能を守り、それぞれを公共交通で結ぼうというのが、拡散型から集約型にということで、イメージはその下の文章となる。

○八尋義伸副分科会長

“水と緑の共生する都市空間の整備”とありますが、230km²という市域を考えると、その地域ご

との特徴を活かしたまちづくりになると思う。

スパリゾートは空間も広く、近くに道の駅もありもったいないので、自治体ができないのなら民間でやっていただきたい。

○宮崎須美子委員

道の駅までは遠い。

○八尋義伸副分科会長

そこで、先ほど出ていた公共交通機関の必要性ということになります。

○吉田輝彰分科会長

公共交通機関の件で、100円バスは、善導寺の屏水中学校地区で一度実験があったが乗る人がいなかった。100円は魅力的だったが運用面で不便だった。今月終わりに、行政の公共交通審議会があり、課題は城島地区をどうするか。城島ということは安武線。安武地区の方も、住民の負担を考えないといけないと言っている。今、市が補助を出して、西鉄バスに走ってもらっている。自分たちの都市は自分たちで考えないといけない。拡散型と集約型をつなぐのはやはり公共交通機関。自分の車では無理。

○橋本安彦委員

特に高齢になると自分で運転ができないし、駐車場を探すのも大変。

○吉田輝彰分科会長

これは八尋副分科会長がおっしゃるように、資料のどこにも入っていない。

○吉田輝彰分科会長

道の駅で車のナンバーを見ると、久留米ナンバーは少ない。交流はいいが、買物だけで通過されてはもったいない。スパリゾートなどがあれば1泊する人も出てくる。田主丸に多目的運動公園ができるが、サッカーをしに来た人たちが温泉に入って、買物をして帰る、というように結びつけていかないといけない。単発ではもったいない。施設の見直しが必要。

旧久留米市以外のところは拡散型で、そこはそこで生活できるようになっている。一方で、こういう方々が市内の中心市街地に出てくるような方策をとらなければ、何のために合併したのかが、わからなくなる。

○佐藤晶二委員

以前はドーナツ化現象という表現があり、中心地がさびれるような感じでイメージがわきやすかった。しかし、拡散型とか集約型のように、今回は漢字になったので全くイメージがわからない。漢

字の羅列だけの感じになっており、もう少しイメージしやすい言葉があってもいいと思う。

また、「持続する21世紀型都市の構築」は、21世紀に入ってもう既に13年経っており、こちらもう少しイメージしやすい言葉がいい。

○吉田輝彰分科会長

そういう意見なので、文言をわかりやすく願います。

今度、総合都市プラザが出来たときには、いわゆるコンベンション、特に、学会の利用がある。この人たちを受け入れる宿泊についても考えないといけない。学会には来たが、帰りは福岡に行くのではもったいない。このような人が落とすお金が、非常に大事なものになる。都市型ホテルのような考えはあるか。

■事務局

大きな課題であることは認識している。観光客は伸びているが、9割は日帰り。できるだけ市内に宿泊との願いはあるが、昼間は観光しても夜は中洲に行くということもある。働きかけは行なっているが需要の問題がある。まずは多くの方に久留米に来ていただき、そのことで民間の意欲を持ってもらうということが、現実的にはできるところ。呼びたいとは思っているが、すぐに民間が来るという状況ではない。

○吉田輝彰分科会長

久留米はブリヂストンの本社機能があり、固定資産税も久留米市に入る。世界に15万人ほどいる社員が、日本人であっても久留米の本社のことを知らない。何故、久留米市はタイアップしてブリヂストンを利用しないか。ブリヂストンに働きかけ、15万人の社員の新人研修を年に1回は久留米で行ない、ホテルなりの受け入れ施設を整備すれば、かなりのお金が落ちる。そういう素人なりの発想の話を聞いて感心した。地元の我々にはそういうところが見えない。もともとあるものにフィードバックして考えていくことが必要。この審議会が始まる時に、これだけは言いたかった。

○西依直子委員

ブリヂストンの新人研修は毎年久留米で行なわれており、石橋文化センターや石橋美術館、石橋迎賓館や工場見学を1泊2日で行ない、東京や全国から集まってきている。私も案内しているが、久留米に宿泊するには、人数が厳しいという話もある。海外からは管理職や顧客を連れて久留米に来ていただき、美術館などを見ていただいている。実は東京の方は久留米に行きたいという声も多い。

○橋本安彦委員

ブリヂストンも社長室や工場を見学できるようにしたり、石橋正二郎さんの生誕100周年から、こちらを向いてやっていただけるようになった。

○八尋義伸副分科会長

しかし、一番怖いのが久留米で工場見学して、市外で泊まれること。

○橋本安彦委員

この頃は駅前にもビジネスホテルが増えた。六ツ門プラザのときも都市型の大手ホテルはどうだろうかという話もあったが、年に何回かの学会だけでは採算が合わず厳しいようだ。総合都市プラザをうまく活用できれば民間が出てくる可能性もあると思う。

○吉田輝彰分科会長

水と緑といったら久留米は筑後川と耳納山。リバーサイドホテルを造ればいいという意見もある。

また、市民が回遊することが大切で、外ばかり向けて発信しても、市民が知らなければいけない。そのためには公共交通が重要で、それが入ってくる場所には拠点をつくる。どのように集約し、その集約した方々をどう結びつけるか、先ほど指摘があった拡散型と分散型を、もう少しわかりやすく。

それと「(2)住み続けたいと思える、住み続けられる地域社会の形成」にもかかってくるが、遊びばかりではなく、住んでもらわないといけない。この辺になると橋本安彦委員の商工関係も非常に関わってきて、雇用の問題も出てくる。

○橋本安彦委員

雇用と安全・安心。久留米は結構マンションが建ち始めている。それだけ人口が増えているのか、拡散しているだけなのかはわからないが、実際に売れている。

○西依直子委員

美術館まで徒歩何分ということで、石橋文化センターの庭が載ったマンションのチラシも出ていた。実際に増えているかはわからないが、増えている感じがする。

○橋本安彦委員

六ツ門も再開発がはじまり、マンション兼店舗のビルが建っている。。

○田島スマ子委員

西国分校区はあちこちにマンションが建っている。

○吉田輝彰分科会長

新しいところは目立つが、古い空き家も目立つのか。

■事務局

住宅着工件数が平成24年度に2000戸を超えて、リーマンショックで落ち込んでいたものが回復してきている。まちなかのマンションや東合川野伏間線沿線で人口が増えている。一方で田主丸や城島周辺、青峰が落ち込み、その辺は空き家が増えていると思われる。

○八尋義伸副分科会長

若い世代の親子3人がマンションに住めば住むほど、田舎の高齢者が亡くなったら、そこが空き家になる。それが周辺部や大きな自治区で目立ってきた。人口は微増しているが、どちらかが増えたら、どちらかが減る、やむを得ないと思う。

○田島スマ子委員

市営住宅の住人が高齢化し、空き家が多くなっている。

市営住宅の5階建ては階段しかなく、上の階にお年寄りが住んでいる。下の階が空いたときには移れるようにできないかと思う。

○橋本政孝委員

希望があれば、低層階に移ってもらっている。

○田島スマ子委員

民生委員もきつい。同じ階でも、階段を降りて、また昇らないといけない構造の建物もある。

○石井宏和委員

細かいことはいろいろあるが、難しいことよりも、例えば日本一挨拶ができるまちになれば、いじめは減ってくると思う。隣近所の付き合いも出てくるから、孤独死も減ると思う。そういう基本的な道徳観が必要。そういう部分が久留米の中で昔のかたちに戻ればと思う。自治会加入数が少ないとか、子ども会が無くなっているとか、隣の親と仲良くなっても、ならなくてもいいという方が多くなり、様々な問題が出てきている。こういうことを入れてもらおうと、お金もかからずにできると思う。

○吉田輝彰分科会長

人間本来のポテンシャルみたいなものが戻れば、住みよい町になる。

○石井宏和委員

久留米に住んで、久留米にたくさん仕事がある。それが一番いいと思う。久留米でお金を落としてほしい。天神ではなく久留米で買物をする。そこに仕事もうまれ、そうすると住民も増える。久留米愛・郷土愛が大きくなればいい。

○吉田輝彰分科会長

まちづくり連絡協議会に、子ども会への加入願いのチラシをコミュニティセンターに置いてもらいたいという要望がある。自分の子どもが小学校に入ったら、自動的にPTAに入る。教育委員会には、子ども会と二本立てではなく一本化してくださいとお願いした。親は、PTAには自動的に入って、子ども会には入るかどうかを考えている。これはおかしい。これは少子高齢化へ向けて、子どもをどう育成するかという問題にもなる。

○田島スマ子委員

子ども会に入ると、親が世話しないといけないので、入るのが嫌なようだ。PTAのことはお世話しても、子ども会の世話は嫌なのだろう。

このことは、時間のある高齢者にお世話をお願いすればいいのではないか。

○吉田輝彰分科会長

知恵を出せばできると思う。PTAで役員ができるのは、教育委員会が行なっているから世話がしやすい。子ども会は義務ではない。入ると役員をしなければいけないので迷う。

○宮崎須美子委員

先日、セーフコミュニティ認証式があった。久留米は医療機関が多く、こちらに住みたいという声が出るといういいなと思い聞いていた。久留米大学病院があり、聖マリア病院があるのはいいが、受け皿探しに負担感がある人生の最終章に安心がもてるような市にしていくと、人口も増える。

○八尋義伸副分科会長

日本人の大きな問題が道徳観。また、権利だけ主張して義務を置いていくようなこと。人間形成と言っては大きすぎだが、このようなことはどこの分科会で話ができるのか。

○石井宏和委員

表の部分より根本の部分。日本人としてあるべき姿。

○八尋義伸副分科会長

日本特有の義理と人情が薄れてきて、これが課題として大きくなっている。

○石井宏和委員

そういう柱があると強い久留米になると思う。

○吉田輝彰分科会長

これを入れるとしたらどこに入るのか。

■事務局

7ページ、「市民一人ひとりが輝く都市久留米」に、「子どもの笑顔があふれるまち」とある。これは第1分科会になるが、子どもの笑顔があふれるまちということで、議論を行なっている。例えば、「2 子育て・子育てを支える地域づくり」、「3 未来へつながる教育の推進」などに入る。

○吉田輝彰分科会長

もう1つの観点として、石井宏和委員と八尋義伸副分科会長が言われた人間形成、人間形成・道徳的なものがどこに入るのかということがある。子どもたちから教育しなければいけないのはわかるが、大人に向けての教育も発信していくべきだというのが、お二人の意見である。

○田島スマ子委員

それは、地域づくりの活性化の中に含まれるのではないか。

■事務局

12ページ中程に、「第4節 多様な市民活動が連帯するまち」とあり、これがまさしくこの分科会でお願しているところになる。住みよいまちづくりに向けた地域コミュニティ活動の活性化を図ると書いているが、このベースになるのが地域はみんなということ。このようなベースの認識がないと、活性化は図れない。そういった視点でここに入れ込むのは可能だと思う。

○吉田輝彰分科会長

良い教育、基本的なことを常に教育しておかないと、日本人としての心を無くしていくのではないかと危惧する。それをこの中に入れていくと、本当に一人ひとりが輝く都市づくりになると思う。

○八尋義伸副分科会長

道徳的なことや人間形成など、次期基本計画でソフト面はどこかに入ってくるのか。子どもだけではなく、全体について。

■事務局

ベースにはなるとは思いますが、それを直接に表現しているところはない。

○八尋義伸副分科会長

必要な事項だと思うので、検討をお願いします。

○吉田輝彰分科会長

石井宏和委員が言われたとおりで、人間形成がまず大事。

○吉田輝彰分科会長

全体的な課題は出そろったということで、この分科会としての報告をまとめる。

- ・ 市民が憩える場所づくりを、官民一体で考えてほしいこと。それには公共交通が必要であること。
- ・ 集約型都市づくりと拡散型都市づくりについては、もう少しわかりやすい文章でお願いしたいということ。それには集約型は旧市の問題であり、拡散型は合併した周辺四町を一体化して結びつけるには、どうするかが課題であるということ。
- ・ 人間としての道徳観を持たなければ、輝く人間都市づくりには遠いのではないか。それにはこの中で課題を見つけて、ひとつの政策に持っていったらどうか。

大きくこの3点を、この次期基本計画の重点課題として、我々の分科会から提案したいと思う。

(休憩)

2 議事

(1)久留米市新総合計画次期基本計画骨子案について

②取り組むべき施策や課題、施策(小分類)内容について

○吉田輝彰分科会長

7ページに体系、また第2分科会の「安全で安心して暮らせるまち」、「心豊かな市民生活を想像するまち」、「多様な市民活動が連携するまち」が11ページと12ページに第2節、3節、4節と記載されているので、ご意見を願います。

○宮崎須美子委員

1週間前に子どもが連れ去られた。親も毎日注意をして送り出す、学校もそういう流れをつくるということを、11ページの第2節に入れてもらいたい。

○吉田輝彰分科会長

宮崎須美子委員が言われた安全・安心は、子どもがさらわれた事件に対する日本国民の意識のことで、防犯がその都市でどう活きているのか。セーフコミュニティの認証を受けた中で、防犯・防災・交通安全は大きな課題に入っており、そういうことで考えていく問題だと思う。

セーフコミュニティの基本的な考え方を、市役所の担当が各校区に説明にまわっている。住民全ては無理なので、各校区の役員、自治会長に説明してもらうことをお願いし、巡回してもらっている、少しは浸透していくと思う。

第2節の「1 セーフコミュニティの推進」の中には、防災・防犯が入っている。これ以外にも他の分科会が携わっている自殺問題・虐待問題など多く含まれている。セーフコミュニティの認証は、久留米の大きな財産にもなり、これを継承して本物にすることが今後の課題。5年先の再認証の時に、落とされないようにしなければならない。

○橋本政孝委員

吉田輝彰分科会長が言われたセーフコミュニティは、「2 防災力の強化」、「3 防犯・暴追対策の推進」、「4 交通安全対策の推進」も入っている。それを体系的に「1 セーフコミュニティの推進」、「2 防災力の強化」と分けているようなので、この考え方を教えてほしい。

■事務局

セーフコミュニティは安全・安心にかかわる広い分野を対象にしているが、「1 セーフコミュニティの推進」は、セーフコミュニティという基本的な考えを浸透させていくという意識づくり、取り組みへの啓発などを考えている。あとの2、3、4については具体的な取り組みとして防災、防犯・暴追、交通安全を個別にあげている。

○橋本政孝委員

頭でくっっているセーフコミュニティというのは、市民一人ひとりが輝く都市以外の分野もあるが、それを「第2節 安全で安心して暮らせるまち」という中で、協働してそれを進めましょうと宣言するということか。

■事務局

この分野は、その他の分野にもまたがって取り組み自体は存在するが、「1 セーフコミュニティの推進」で想定したのは2行目に書いている理念の普及定着と最後の意識づくり、セーフコミュニティで安全・安心に取り組んでいく風土をつくっていくという考え方。個別の具体的な取り組みではそれぞれの分野に溶け込んでいる。

○吉田輝彰分科会長

セーフコミュニティというくくりが、ここに出てきていることに対して、あとの2、3、4はこの中の課題。他の分科会にも、セーフコミュニティで取り上げている問題がある。地域医療や健康問題、障害者自立、自殺問題等の分科会である。

この7ページのくくりで言うと、ひとつは中分類でセーフコミュニティを出したらどうかと思う。そうすると下が抜けてしまう恐れがあるが、セーフコミュニティの推進だけで膨大な対応になる。大変な課題だと思う。くくっしまえば「安全で安心して暮らせるまち」になるかもしれない。

○橋本政孝委員

虐待はどこに入るのか。

■事務局

虐待の防止については、「人権の尊重と男女共同参画が確立されたまち」の「2 人権擁護対策の推進」の中にDV、暴力、虐待の未然防止をまとめて整理しており、児童虐待もそちらに入れるイメージです。骨子案の10ページです。

○吉田輝彰分科会長

セーフコミュニティということ自体が大きいので、これを一度研究してもらえないか。

■事務局

どのようなくりかたをするかという問題ですね。

○八尋義伸副分科会長

すごく具体的になるが、吉田輝彰分科会長にお尋ねしたい。「2 防災力の強化」とあるが、消防団活動と女性防火クラブ活動がある。例えば、宮ノ陣校区の話をする、ハード面の予算面で、

私は女性防火クラブの予算が少なくかわいそうだと思う。男性はかなりの予算規模もあるのに、女性は少ない。

○吉田輝彰分科会長

私も気にしている。私のところも女性防火クラブの発足が遅れた。過去にはあったが、途中で婦人会が無くなり、自然に女性防火クラブも無くなった。その空白が7年間あり、再び作った。助成金が市から年間3000円か5000円、あとは校区でということで、振興会費の中から必要経費だけは別予算で補っている。

○八尋義伸副分科会長

火災の初期消火は女性が担っている。私は、「1年交替でもいいですよ。」と言っている。研修を体験して初期消火の重要性を学んでもらうことができる。

○吉田輝彰分科会長

「2 防災力の強化」は、こういう力をいただかないと結びつかないと思う。

○八尋義伸副分科会長

青色回転等を使用した自主防犯パトロールは、各校区に入ったのか。子どもたちの下校時に青パトで巡回してもらえるのは役に立っている。

○橋本安彦委員

青パトはまだ全部には入っていない。まだ3分の1もない。

○吉田輝彰分科会長

最初の呼びかけは、市の廃車利用だったが、かえって経費がかかりすぎて敬遠されている。

○橋本安彦委員

地元の人への寄付が必要。

○吉田輝彰分科会長

今、希望がもてるのは日本財団。申し込むとかなりの確率で採用され、8割を助成してもらえる。うちも新車を入れて巡回しているが、それをまちづくり協議会でみなさんに紹介している。2割分も、久留米市には「キラリ輝く市民活動活性化補助金」があり、校区では出さなくてよい。それと赤い羽根共同募金もあるが、これは当選が難しい。寄付してもらうのが一番いい。

○橋本安彦委員

今は、7年くらいで個人も車を手放す。まだまだ乗れるものがたくさんある。
交通安全対策の推進について、交通安全協会との兼ね合いはどうなっているか。

○吉田輝彰分科会長

青パト関係は、区分的には防犯協会が受けもっている。地域によっては、「下校時の見守り隊」の方々が主体になってやっているところがある。

○八尋義伸副分科会長

青パトは特別な講習が必要で、青パトの運転講習は交通安全の委員さんや、防犯・暴迫の役員さんに免許を取得してもらっている。

○佐藤晶二委員

「2 防災力強化」でお尋ねしたい。以前は、防災というと台風で川が氾濫することだったが、最近では地震などの被害が大きい。これについては何を目標にしたのか。昔から同じようなパターンでネットワークを構築するのはいいが、ソフト・ハードでもハード面だけが簡単に書いてある。例えば地震が来た場合、古い老朽化したマンションは危ない。久留米も地震がこない保障はなく、学校関係で耐震化は行なってきた。しかしビルの安全性やハード面での目標は、前とは違って台風だけではなく、地震とか自然災害が多くなってきて、どこに力点をおいているのかがよく見えない。

具体的にハードだけ書いてあり、あとはネットワークでみなさん頑張ってくださいという話だけで、もう少し、施設改善の話とか書けなかったのか。

■事務局

こちらのほうにはハード・ソフトの面からという書き方をしているが、8ページから9ページに「3 快適な土地基盤・生活基盤の構築」という項目がある。この中の9ページにかけての橋りょう・上下水道等、耐震化計画の策定の部分が、こちらに入っている。切り分けはあるが、全体的な防災の推進という考え方の部分を書いている。特に防災自体がソフトだけでなく、ハードとセットというのが東日本大震災からの流れと思う。そのような防災力を上げていくなかでの考え方で整理している。

○佐藤晶二委員

ある程度ビル災害とかにまで話を広げていかないといけない。実際、河川の災害防止の工事も遅れている。そういう意味では地震とか耐震を考えた場合、もう少しこのテーマの中に入っているのがいいと思う。

■事務局

国のほうでも民間のマンションや、大規模に人が集まるところの民間の建築物にも耐震化が必要だという動きも出てきており、そういった点も加味して動きができればと思っている。

○吉田輝彰分科会長

防災の部分で地震は出たが、久留米市は原子力発電については考えているか。

■事務局

昨年、地域防災計画を見直した。原発災害の部分について、久留米市は国の特別区域には指定されていないが、当然風向きによっては影響が考えられる。そのようなときの対応を中心に、特に測定の部分で国と協力し、住民への公表を行なうという基本的な柱だけは整備している状態です。

○吉田輝彰分科会長

原発は国が指定する周辺だけではなく、万が一もある。

○石井宏和委員

話は変わるが、暴力団の件がある。大学生と話をする機会があり、市外から久留米の大学に来た学生たちが、実は久留米は暴力団が多くて怖いというイメージを持っていることが、非常に多いことがわかった。私は生まれ育ってきた土地なので、何も感じないが、風評被害ではないにしても、久留米は市外から悪く思われていると気付いた。久留米はこんな住みよい町なのに、私はギャップを感じた。そのあたりの事実はどうなのか。もし風評被害があるとすれば外に向かって、久留米の良いところ、例えば待機児童がないまち、子育てしやすいまち、医療が充実しているまちをアピールしていかなければならないと思う。

■事務局

警察の取締りの効果はある程度出てきている。しかし、石井宏和委員が言われた意見は、私も耳にしており、これは大きなマイナスと考える。具体的には子育て、食、医療を積極的にお伝えするという点では、分科会は違うが、16ページの「1 シティプロモーションの促進」で、重点にしている。福岡都市圏や関西に、その地域用のパンフレットやチラシで定住とか交流の情報発信を行なっており、今後も力を入れていかなければいけない。

○八尋義伸副分科会長

今のような意見をどこかで記載していただきたい。

○吉田輝彰分科会長

学生さんに、暴力団が多いまちという風評があるとすれば、それを打ち消す発信をしなければ

いけない。今の16、17ページだけを見ると暴力団が減っているのがわからない。

■事務局

安全・安心という意味では、先ほどから話が出ているセーフコミュニティを通して、地域の安全・安心に市全体で取り組んでいるということを、強くアピールしていくことを考えている。

○吉田輝彰分科会長

久留米市としてもその場で警察にお願いして、外に向かってアピールしていかないといけない。地元の人は絡まれたことはないが、市外の人にとっては暴力団がウロウロしているイメージかもしれない。そういう政策を盛り込んだ方がいいかもしれない。

■事務局

ひとつ事件が起きて大きく報道されると、そのようなまちだと捉えられてしまう。

○橋本安彦委員

特に土地の問題だが、出て行ったあとに暴力団の跡地と書かれるから、まだ居るのではないかと思わる。早く処分すべき。

○吉田輝彰分科会長

あそこは売りに出したのか。

○橋本政孝委員

まだだが、来年度早々には公募をかける。

○吉田輝彰分科会長

市は何も計画予定は無いのか。

○橋本政孝委員

公共で使う予定はない。民間に売却するという方向です。

○佐藤晶二委員

ピストルのイメージも強い。ピストルの弾が飛び交うまち、というのが久留米のイメージ。九州地区ではあまり出てこないが、北海道では報道されていたようだ。

○田島スマ子委員

久留米は、住んでみると本当に住みやすいまち。

○吉田輝彰分科会長

第4節はいかがか。第2節を議論してもらったが、第3節と第4節は何かないか。生涯学習問題など、これは各地域いきわたっているか。

「創造的な文化芸術活動の推進」、これは非常に力を入れている。

○西依直子委員

石橋文化センターは、学校に芸術家を派遣しているが、やはり次の世代の人たちを育てなければいけない。本物を見せたくて小学校に芸術家を連れて行く。学校の授業で教えているなかで、能、狂言や楽器などの人気がある。これからは芸術家が住みやすいまちをつくっていかないといいけないが難しい。ここにも書いてあるように情報を発信し、多くの人にいろいろな事業をやっていることを知っていただきたい。今度は総合都市プラザもでき、多くの人に知ってもらうための仕組みづくりが大事だと思う。

○橋本安彦委員

催しもの情報ばかりが多いようだが、広報くるめは市民に見られているか。

○西依直子委員

広報くるめに掲載されたら、ものすごく人が集まる。広報くるめでブリヂストンの工場見学を募集したことがあるが、応募が多くて抽選になった。

○吉田輝彰分科会長

芸術家が住みやすい仕組みづくりを、まちおこしとしても考えている地域がある。空き家や、いろんな民家を、まちぐるみで無料で貸すなどの政策で、そういう地域に定住して交流が深まること。鹿児島島の柳谷(やねだん)に、外から来た人が住み着き、芋焼酎づくりで儲けだして、住民にボーナスを配っている。久留米市もそういう取り組みが必要。

○西依直子委員

音楽家はたくさんいる。いろんなところで演奏会はあるが、意外にアート系の方たちがいない。

○吉田輝彰分科会長

アートの人は坂本繁二郎、青木繁ぐらい。アートの人がいない。

○橋本安彦委員

市民オーケストラも役にたっていると思う。お別れの会でも演奏できると知った。オーケストラの中でそういうグループをつくり、いろいろなところ出張しているようだ。また、草野とスパリゾート

をうまく線で結ぶと面白いかもしれない。焼き物の里にするなど。

○吉田輝彰分科会長

「くるめ街かど音楽祭」は評判がよかった。

○西依直子委員

教会でやったり、商店街でやったり、いろいろな方が見に来てくれた。

○吉田輝彰分科会長

久留米市は旧久留米市で、久留米オリンピックを行なっていて、それには旧四町も参加しているが、旧四町は旧四町で自分の地域でも行なっている。そこらの兼ね合いが難しく、旧四町の会長さんたちは気にしておられる。自分たちのところでも行なわなければいけないし、久留米市のオリンピックも行なわなければいけない。お祭りも同様。

○橋本安彦委員

今度は城島酒蔵びらきがある。

○吉田輝彰分科会長

4節は何かないか。先ほど出た地域づくり活性化のベースになるもので、人間形成の話が出ていたが、この辺で事務局から何かないか。

■事務局

すぐに文案までは出てこないが、本日のご意見を参考にし、工夫ができるものは行ないたい。

○八尋義伸副分科会長

コミュニティセンターは、3人体制ですか。

○吉田輝彰議長

現在、旧市は3名体制で、旧町は2名体制です。

○八尋義伸副分科会長

そうすると、旧市内では人口の多い所も少ない所も3名体制。これについてはどう思うか。

○吉田輝彰議長

保健所業務が増えたので、地域で1人増員し助成してもらっている。あとの人員不足については地域で増員してくれというのが基本だが、増員している校区はない。例えば南校区や、西国分

校区は何万人も住んでいる一方、浮島や大橋は何百人の校区であり、そこに3名も必要かという問題が生じている。

○八尋義伸副分科会長

住民が多い地域と、少ない地域をはっきりさせたほうが良いと思っていた。

○吉田輝彰分科会長

それと、今度は事務局長のスキルアップのために給料を上げるようになった。昔の公民館時代と違ってまわらなくなったため、会長の右腕的な企画立案ができる人を雇用してもらおう。そのため、事務局長職の給料をアップする。また、事務員さんもいるので、事務員さんも段階的に上げようということになった。

民間でも長く勤めたら給料は上がるので、いくらかでも上げるという考え方。その代わりに新規採用を下げる。

○八尋義伸副分科会長

このような動きが、市民活動が連帯するまちになる。どのコミュニティセンターも頑張っている。

○吉田輝彰分科会長

雇用基準は校区によって全然違うが、今はかなり優秀な人材がきている。

活動のネットワークの形成については、実績が上がっているようだ。

■事務局

大学生を含め、まずは出会いの場をつくる形で、そこから広げたいと思う。

○吉田輝彰議長

この地域に暴力団がないこともPRしなければいけない。

○石井宏和委員

以前、六角堂広場があったときは、まちづくりをしているボランティアや、公益活動団体は無料でイベント会場を借りられたが、今度の総合都市プラザは無料になる可能性はあるのか。

■事務局

現在、料金設定の検討段階です。

○石井宏和委員

まちづくり団体はお金をもっていない。大学生とかボランティアもお金をもっていないので、あ

のような六角堂広場を利用させてもらえることで、アマチュアがプロのように動けて助かった。今後もそのような場所が残っていくと嬉しい。

○八尋義伸副分科会長

活動のネットワーク形成として、ボランティアや大学生の交流の場から斬新な考えが出てくる。そうすれば46校区のコミュニティセンターにも浸透していくと思う。

○石井宏和委員

校区のコミュニティセンターに携わっている方には、私の世代が少ない。今後は30、40代も入ったほうがいいという考えか。それとも若い人は自分の仕事を頑張ってもらって、校区は退職した人たちで行なうという考えか。

○八尋義伸副分科会長

そういうことは、年配の方と若い人が、コラボしながら進んで行くのがベストだと思う。

○石井宏和委員

「1 地域づくり活動の活性化」に、30、40代の人間を取りこむような一文を入れると、もっといろんな方が参加できる校区のまちづくりができると思う。

○田島スマ子委員

私が大学生と交流するにあたり感じていることがある。私もボランティア活動をしており、そのときに大学生にも来てもらうが、彼らから交通費を出してくれと言われる。

○吉田輝彰分科会長

大学生と言われるが、久留米にはアルバイトをするところが無いから、日曜日に地元の大学生が残っていない。

○橋本安彦委員

福岡にまで、久留米大学の学生さんがアルバイトに行っているという話を聞く。

○吉田輝彰分科会長

御井町あたりは1人暮らしのアパートが一時期は満室だったが、最近は空き部屋が多い。今は小郡周辺に住んで、学校が終わったら家に帰って、そこから福岡にアルバイトに行く。残っている方は留学生の方が多い。だから外国人が多い。この方たちが交流の場に出てくるから外国人との交流にはなるが、これは地域づくり活性化の中の課題。企業の活性化も必要。

○橋本安彦委員

久留米にもアルバイト先は結構あるが、全体的には減ってきている。久留米大学の学生は、今は何人くらいか。

■事務局

久留米大学だけで8000人くらい。

○吉田輝彰分科会長

それでは、まとめていく。

- ・第2節については、セーフコミュニティの推進の全体的な位置付けを、整理していただく。
- ・防犯については青パトの活用を盛り込んで、推進していただく
- ・防災については、8ページと9ページの「3 快適な都市基盤・生活基盤の構築」のハード面の記載との整理をしていただく。
- ・暴迫については、暴力団の存在による風評被害対策が重要であり、市外から来る若者に、久留米の良いところを浸透させていく取り組みを検討していただく。
- ・第3節については、「芸術家が住みやすいまち」の仕組みづくり。ここが第3節の大きな目玉になる。
- ・第4節の「1 地域づくりの活性化」については、人間形成の取り組みについて検討していただきたい。
- ・「2 市民活動の充実」については、コミュニティセンターの活用が重要である。これは「1 地域づくりの活性化」にも通じることである。
- ・「3 活動のネットワークの形成」については、老若男女、大学生の交流を深めるため、旧六角堂広場のように、今度の総合都市プラザを活用できないか。

以上を第2分科会のまとめとして報告することとする。

何か抜けがあったら、事務局に連絡をお願いします。

3 その他

■事務局より、次回分科会を2月17日15時から、商工会館2階204会議室にて開催したいとの連絡

4 閉会

○吉田輝彰分科会長より、閉会のあいさつ